

「第4回クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ参加報告書」

京都大学経済学部3年 (檜作まどか)

- ① シリコンバレーにあるスタートアップやインキュベーターなどを回って、失敗を恐れず自分のやりたいことを選んで仕事をする人たちの話を聞きました。その人たちは、やりたいことを見つけると、つながりのある人にあたってみたり、大学に入りなおしたりして、達成に必要な行動を自分で決定し実行していました。日本では多くの人が、同じような進路を進んでいるように感じ、違いを感じた。他にも、企業への就職は人とのつながりが重要であったり、お金儲けのために仕事をしていると公言するのも当たり前であったり、日本との文化的な違いを感じた。このような違いは現地に行き、人々から直接話を聞かなければわからないことである。違いを知ることで文化理解が可能になる。このような経験をこれからもしたいと思った。そのためには英語の力が必要であると改めて感じた。聞き逃したり、質問したくてもためらってしまったり、英語力の低さは、学習を非常に妨げた。聞く力と話す力を向上させるような勉強を今後さらに進めていく。また、スタンフォード大学の学生と討議した時に、アメリカ人を「アメリカ人」とくくって文化の話をすることはできないと言っていた。アメリカのような広い国でも、日本でも、文化と言ってすべての人をひとくくりにすることはできないと感じた。
- ② サンフランシスコのダウンタウンを歩いているとき、路上生活をする人や暴れる人がたくさんいて身の危険を感じた。日本ではかばんを少し置きっぱなしにしても大丈夫だと思えるぐらい治安が良いので、特別なのだと実感した。すべての場所が危険だというわけではないが、海外で生活するうえで、自分の身の安全をしっかり意識することは非常に重要だと実感した。また、車の多さに驚いた。多くの人が一人で車に乗り通勤することで、通通勤時間の渋滞が非常に大きな問題となっていた。二人以上が乗る車の専用レーンがあったが、とても空いていて、渋滞はひどかった。シリコンバレーもその発展に伴い大きな問題が発生しており、話をしてくださった人々も懸念していた。
- ③ ベンチャー企業やスタートアップ、インキュベーター、NPO、ベンチャーキャピタルを回り働く人から事業内容やこれからのシリコンバレーなどについて話を聞いた。さらにスタンフォード大学やUCバークレイを訪問し、こちらから発表したり、学生や教授と討議をしたりした。
- ④ 自分のビジョンに向かって自らの意思で進路を決める人々と交流し、私も周りと同じような進路でなくてもいいと思えるようになった。そのうえで、自分のやりたいこと、勉強したいことに向かってこれからも大学での勉強や就職活動を進めていきたい。さらにビジネススクールに通う人に話を聞いたところ、職務経験のある人が多かった。実務を経験したうえで、もう一度学びなおすという経験は非常に効果的なので、そのような新しい選択肢も視野に入れていく。